

令和5年度の学校評価

本年度の重点目標	①授業づくり ・教職員の専門性のさらなる向上を図り、発達段階や年齢、特性に応じた指導・支援をする。 ・学習指導要領に基づき、12年間の学習の系統性を検証する。 ・授業などにICTを積極的に活用し、児童生徒自らが情報化社会に対応できる力の基礎を身に付けられるようにする。 ②環境整備 ・感染症対策をはじめ、安全で安心できる学習環境について、最新の情報に基づいて検証、改善を継続する。 ・教職員にとっても働きやすい環境という視点に立ち、必要に応じて業務の見直しを図る。 ③地域との連携・協働 ・学習に地域資源を生かし、児童生徒が身近なところから生活する力を身に付けられるようにする。 ・効果的な学習や卒業後のよりよい生活のために、医療や福祉、進路先など関係機関との連携を図る。 ・地域の特別支援教育力向上のため、積極的に情報提供する。			重点目標の番号
項目	重点目標	具体的方策	留意事項	
小学部	児童一人一人の自尊心を育み、年間を通して楽しく理解できるように授業づくりができるように努める。	児童が何かを感じたり、考えたりできるように教材教具を工夫し、情報を共有する。教職員が適切な言葉かけをして児童の特性に応じた指導・支援をする。	児童が「もっとやりたい」「もっと知りたい」と意欲をもって活動に取り組める授業を追求する。教職員間で授業を参観し合っ、指導・支援の方法や児童の成長を伝える機会を適宜設ける。	①
中学部	中学部段階における生活に生きて働く力を育成するための生活単元学習について、新学習指導要領に基づいた指導を確立する。	中学部の目指す子ども像と、学習指導要領に基づき、3年間の系統性のある年間指導計画を作成する。また年間指導計画に各単元に含まれる教科名を明記する。	各単元において取り扱う教科を明らかにし、複数の教科の内容と目標を合わせて指導することで学習が充実するよう生徒の学びやすさの観点から単元計画を立てる。	①
高等部	地域資源やICTなどを生かした指導内容を検討し、授業づくりの充実を図る。	地域の方々との交流・連携、また地域資源を活用した指導を計画的に実施する。  情報機器の環境改善に努め、授業での活用を図る。	以前から実施してきた地域資源を生かした授業を精査して、計画的に指導しやすくなるように改善する。  タブレット端末が使用しやすいように徐々に情報環境の改善を図り、授業で使用する。	③  ①
総務部	教室、特別教室の備品等を整え、学習環境の充実を図る。	教室備品、消耗品の適切な配布や補充に努め、安全に使用できるように点検や交換、補充を進める。	点検表を利用するなどして、各教室や特別教室の備品、消耗品の管理を徹底し、交換、補充する物については計画的に購入を進める。また、定期的に必要物品についての情報を集め、購入を検討する。	②
教務部	学習指導要領に基づき、各教科等における12年間の年間指導計画の系統性を検証する。	各教科等の令和5年度の年間指導計画が、学習指導要領に基づいているか、またその内容が学年間、部間の系統性に課題がないかを、教教会を中心に検証する。	教務主任と教科主任で連携を取り、教教会で計画的に検証を進められるようにする。課題を洗い出し、課題を踏まえて令和6年度の年間指導計画を立てられるように周知する。	①
保健体育部	自分の健康を守ることでできる児童生徒の育成を目指し指導・支援の充実を図る。	本校の健康づくりのグランドデザインを周知し、健康づくりへの意識を高める。  ICTを活用した健康診断事前指導の教材を作成し、担任との連携を進める。	保健指導や食育指導等を行う際には、健康づくりのグランドデザインも確認できるように提示する。  健康診断について、発達段階に応じた事前指導を行うことで、児童生徒の健康診断への理解を深める。	①  ①
生徒指導部	危機管理体制の充実  いじめ不登校問題への組織的な対応	職員の臨機応変な対応が必要な実践的な訓練を実施する。  教育支援部、スクールカウンセラー、外部機関との連携を図る。	防犯・防災に対する環境整備と共に、職員の危機管理意識の向上を図る。  いじめ防止基本方針を見直し、事案に対して一人の教師で解決するのではなく、組織で対応することを職員に周知する。	②  ② ③
進路指導部	進路の手引きの改善を図る。	一年間かけて内容を検討し、来年度に保護者、教員に改善した手引きを配付できるようにする。	進路希望調査を利用してアンケートを取り、記載してほしい内容を進路の手引きに反映する。見やすい・分かりやすい方法を工夫する。	③
自立活動部	自立活動の指導内容や教材に関する職員の理解を深め、専門性向上を図る。	校内の自立活動についての資料を充実させ、資料や教材を整理し分かりやすく提示する。	くすのき手引きの自立活動内容解説にある指導事例を増やしたり、自立活動だよりで指導内容例について紹介したりする。また、指導内容や教材に関する資料やデータを職員が効率よく指導・支援に生かすことができるよう整理をしたり、自立活動室内にある教材の提示の仕方を工夫したりする。	①
研修部	教職員の専門性の向上について検討し、よりよい研修の企画や運営を行う。	専門性の向上について狙いや内容を検討し、そこから必要な研修や講座などの企画と運営を進める。	本校の特色や課題等から、どのような専門性を向上すべきかを検討する。外部の講座の紹介の仕方も工夫し、多くの教職員が参加しやすいよう工夫する。	①
情報図書部	高等部(3階)のICT環境の整備を行う。  児童生徒が本を正しく取り扱うことができるように環境を整える。	無線LANアクセスポイントを常設し、インターネットへのアクセスを行いやすくするとともに、使用できるアプリの精選を行う。  本を大事に扱ったり整頓して返却したりできるように、通信や掲示物などで分かりやすく提示する。	多くの教室に届くようにアクセスポイントの設置場所を改善していく。アプリは、職員の希望を聞き取り容量に配慮しつつ精選して取り入れるようにする。  通信や掲示物の提示だけでなく、各学級でも図書室の利用について指導をしてもらえるように職員に周知する。	① ②  ①
教育支援部	センター的機能の役割としての地域支援のあり方を整理する。	くすのき相談センターとの連携を深め、地域の学校への充実した支援が行えるような基盤を整える。	相談センター職員と定期的に情報交換、支援方法の検討等を行う。地域支援で使用する事前相談シートの改良を行う。教育支援部職員で学習会を行い、地域支援に関するスキルの向上を図る。	③
多忙化解消	業務改善及び効率化を図る。	業務改善の具体的な提案を収集し、業務の改善や業務均等化を継続的に図る。	業務改善の具体的な提案の収集について、効率的で継続的な方法を検討する。業務改善は、全体のバランスを考慮し、個々の意識を高める。	②
学校関係者評価を実施する主な評価項目	・児童生徒の発達段階や年齢、特性に応じた指導・支援の充実 ・児童生徒が安全・安心して学校生活を送るための環境整備及び指導・支援の充実 ・積極的な情報発信による保護者や地域、関係機関との連携			